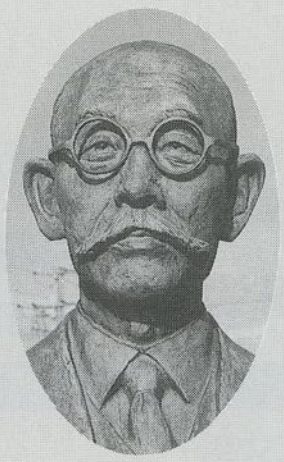
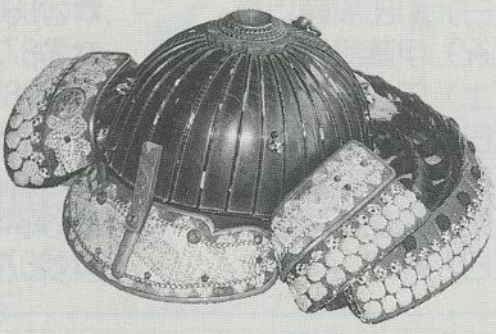


偉人 坪内逍遥

美濃加茂と逍遥

幕末の動乱期、元治元年(1864)、天狗党（水戸藩の派閥争いがもとで兵を挙げた集団）の浪士武田耕雲斎の一隊が、京都の一橋慶喜に自分たちの心情を訴えるため、中山道太田宿を通過することになりました。太田代官所では、当初、戦うように準備をしましたが、本陣福田太郎八らの協議によって、戦うことなく通過するのを黙認することになりました。

このとき逍遥は、宿場の町屋でこの一隊を目撃したのです。幼い逍遥にも街の緊迫した様子が理解できたことでしょう。



武田耕雲斎兜（かぶと）（福田幸周氏所蔵）